

地図は、正直にはなれない

年 組 番 名前 _____

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Look at the world map on the classroom wall. On many of them, Greenland looks about the size of Africa. In fact Africa is around fourteen times larger. The map is not broken, and nobody made a mistake. Most people never notice, and there is no reason they should.

[2] The map you are looking at was probably drawn to keep angles correct. That was a serious problem to solve. A sailor who draws a straight line on such a map can follow one compass direction and arrive. For four hundred years this saved ships, and it is not a small thing to have done.

[3] The cost appears somewhere else. The earth is a ball, and a sheet of paper is flat. You cannot lay one on the other without stretching something. Every flat map is a compromise before anyone draws a single line. If a map keeps angles right, it must stretch area, and the stretching grows as you move away from the equator.

[4] Other maps make the opposite choice. Some keep area correct, so Africa looks as large as it is, but shapes near the poles are pulled sideways and look strange. Some keep distance correct from one point only. None of them is lying. Every map on every wall has given something up.

[5] So the question is never which map is honest. No flat map can be. The question is which distortion you can live with for the job you are doing, and whether the person who chose it told you what they gave up.

[6] Find the map nearest to you and ask what it was made for. Then look at the countries near the top and bottom edges. You are not looking for a lie. You are looking for a price that somebody paid. Then decide whether that price suits you.

〔語注〕 angle=角度 equator=赤道 pole=極(北極・南極) distortion=ゆがみ

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

地図は、正直にはなれない 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ） 3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 教室の地図が角度を正しく保つように作られたのは、何のためだったか。 知識・技能 答え（ ） 3点

- ア 国の大きさを比べやすくするため
- イ 船が一つの方角に進んで着けるようにするため
- ウ 印刷にかかる費用をおさえるため
- エ 赤道の位置を分かりやすくするため

(2) 角度を正しく保つと、何が起こると本文は述べているか。 知識・技能 答え（ ） 3点

- ア 面積が引きのばされ、赤道からはなれるほど大きくなる
- イ 海の色がじっさいとちがって見える
- ウ 地図の上下が逆になってしまう
- エ 距離がどこでも正しくなくなる

(3) 面積を正しく保つ地図について、本文が述べていることは？ 思考・判断・表現 答え（ ） 3点

- ア どこから見ても形がゆがまない
- イ 船の航海にいちばん向いている
- ウ 極の近くの形が横に引ばられて見える
- エ 現在はもう作られていない

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者は、地図について問うべきことは何だと述べているか。20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現 5点

地図は、正直にはなれない（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	That was a serious problem to solve / it is not a small thing to have done で、その地図の値打ちをいったん認めている。エは[6]段落。
(2)	イ	The cost appears somewhere else. が転換点。
大問2 内容の読み取り		
(1)	イ	[2]段落 can follow one compass direction and arrive.
(2)	ア	[3]段落 it must stretch area, and the stretching grows as you move away from the equator.
(3)	ウ	[4]段落 shapes near the poles are pulled sideways and look strange.

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者は、地図について問うべきことは何だと述べているか。20字以内で書きなさい。5点

どのゆがみなら受け入れられるか。

配点	その点を与える条件
3点	「どのゆがみを受け入れるか」にあたる内容がある
2点	「その用途・目的に対して」に触れている

「どの地図が正しいか」と書いた答案は0点。[5]の No flat map can be. で明確に否定されている。



地図は、正直にはなれない（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

「どの地図も何かを歪めている。問題はどれを歪めたかだ」という、**選択には代償がある**型の論説です。譲歩[2]がとても具体的（航海には角度が正しい図法が要る）なので、「メルカトル図法は悪い」と結論する生徒はここで落ちます。数学・地理と接続しやすく、読んだあとに「教室に貼る地図をどれにするか、理由をつけて選ぶ」という活動へそのまま渡せます。速読ラダー06（地図の北）と題材が近いので、続けて配ると読みの負荷が下がります。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。道具の否定と選択の指摘を読み分ける
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。無生物主語と否定の範囲
内容説明（記述）	思考・判断・表現	「歪みは避けられない」という条件を落とさず書けるか
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。